

過去問配付用

令和8年度 一般選抜前期日程

国語

—— 注 意 事 項 ——

1. 問題冊子および解答用紙の所定欄に「受験番号」「氏名」を記入しなさい。
2. 解答はシャープペンシルまたは鉛筆を用いなさい。
3. 解答は記述式です。文字が識別できるように丁寧に記述しなさい。
4. 訂正するときは消しゴムで丁寧に消しなさい。
5. 問題冊子および解答用紙に落丁や汚れがあれば申し出なさい。
6. 終了後、問題冊子を持ち帰ることはできません。

受験番号	
氏 名	

福岡看護大学

I 次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

いくら努力しても、目標が達成できない……。これは、誰もが経験することですよね。いくらがんばっても努力がムク^アわれない。そういった時はどこを改めるのがよいのでしょうか。

(①) 大事になってくるのは、なぜ、その目標を達成することができないのかを考えてみることです。その原因はどこにあるのかを、じっくりと自分で考えてみましょう。

「努力が足りなかったから」、「目標を達成するための計画や方法が悪かったから」、「目標が高すぎて自分の能力には合っていないかったから」、あるいは「その目標が自分にとって重要ではなかったから」など、その原因はいろいろと考えられます。まずは、その原因をきちんと見極めることから始めましょう。

原因を見極めることができたならば、それに応じた対処法を考えていきます。

努力が足りなかったと感じているならば、もうちょっとだけ努力の程度を増やしてみましょう。目標達成の計画や方法が悪いと思ったら、それを修正してみましよう。たとえば、「毎日、帰宅後二時間勉強する」という計画がうまくいかなかったのだとしたら、朝、学校に行く前に一時間勉強をして、夕方、家に戻ってきたらもう一時間勉強するという計画に切り替えてもよいかもしれません。「一月で二キロやせる」という目標のために「毎日、ジョギングを一五分する」という目標を立てて実践したけれど、なかなかやせられなかったのならば、ジョギング一五分に加えて、カロリー制限を新たな下位目標として設定する方法もあるでしょう。次に、目標のレベルが高すぎて自分の能力に合っていないかったとしたら、目標を再設定するのがよいでしょう。また、その目標が自分にとって重要でないと感じたなら、重要な目標に変更しましょう。勉強が重要である人にとっては、「テストで良い点数をとる」という目標、ひいてはその下位目標である「毎日一時間勉強する」というのは実現可能な目標になります。そもそも勉強が重要でない人にとっては、「毎日一時間勉強する」というのは、達成が困難な目標になってしまいます。とはいえ、自分にとっては重要ではないことでもやらなくてはいけないこともありますよね。そんな時は、なぜ、勉強することが重要なのかを考えてみるとよいかもしれませんね。

(②) 、達成できない目標に対しては、なぜ達成できないのかその原因を見極め、設定していた目標を上手に調整することが大切です。

どんなに(①)の精神で目標を追求しても、さらには、目標達成できない原因を見極め、目標を調整しても、すべての目標が達成されるとは限りません。世の中には、達成できない目標もたくさんあります。

人生にはさまざまな困難が待ち構えており、(③)達成できない目標のほうが多いのかもしれないかもしれません。そのことは忘れないようにしてください。

私が実施した調査では、達成できない困難な目標をあきらめずに、いつまでも努力を続けていると、うつになりやすいという結果が得られています。

いくらがんばっても、目標を調整しても達成できない目標は、きっぱりとあきらめる勇気も必要です。そして、新たな別の目標を探し、それに向かって進んでいきましょう。

ひたむきな努力は必要です。しかし重要な最上位目標を達成するための「手段」にすぎない下位の目標にまで、³⁾フモウな努力を続けても意味がありません。

ひとつの目標に集中する「木を見て森を見ず」思考にとらわれていると、結局はすべてを手に入れられないことになってしまいかねません。ひたむきになると視野が狭くなって、他の大切な目標に気づけなくなってしまう。

これまで専念してきたことから自分を解放し、負の感情をコクフク^ウし、新しい目標を見つけて、それに合

わけて行動を変えることは、容易なことではないかもしれませんが。しかし、時間や労力は決して無限ではありません。より重要な別の目標に、時間やエネルギーを割くことを考えましょう。

下位の目標が難しければ、（Ⅱ）に切り替えます。そのため、具体的な下位目標はいつでも修正できるように、鉛筆書きにしておくとかよいかもしれません。必要に応じて修正したり、削除したりすることで、気持ちを切り替えられるはずです。

逆に、自分の生き方そのものの、自分の目指す生き方についての最上位目標はサインペンで書くくらいの志があってもよいかもしれません。

やる気を高めることはなかなか難しい。やる気というものは、何もしないで突然わき上がってくるものではありません。ここで紹介した目標設定を上手に活用して、みなさんのやる気を高めていってください。工夫（目標設定）ひとつで、自身のやる気が高まります。

（外山美樹『勉強する気はなぜ起らないのか』筑摩書房より）

一 文章中（ア）・（イ）・（ウ）のカタカナの正しい漢字を①～④から選んで記号で答えなさい。

ア ムクわれない

①無垢

②報

③剝

④向

イ フモウ

①不問

②麓

③不毛

④普請

ウ コクフク

①克服

②克復

③克副

④克複

二 文章中の①・②・③に入る最も適切な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア このように

イ しかし

ウ やがて

エ むしろ

オ ところで

カ きつと

キ まず

ク それとも

三 文章中の（Ⅰ）に入る最も適切な言葉を、次から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 泰然自若

イ 一念發起

ウ 不撓不屈

四 文章中の（Ⅱ）に入る最も適切な言葉を、次から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 縦横無尽

イ 臨機応変

ウ 用意周到

五 この文章では、目標を達成できない場合にどうすればよいかについて、大きく二つの提案がなされています。それぞれの提案内容を二五字以上三五字以内で、「…ことを提案している」につながる書き方で答えなさい。（句読点も一文字とする）。

II

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

人は、他の動物と比べることができないほど高度に抽象的な思考ができます。それを可能にしているのは言語です。ことばはモノ、行為、モノの特性、私たちが持つ感覚などさまざまな事柄のある特定の視点から分類し、整理しています。しかし、それだけではなく、目に見えない、あるいは触れることができない概念にも名前を与えます。では、子どもがことばを覚えることと、思考の発達とはどのような関係があるのでしょうか？ 言語は子どもの思考にどのような影響を与えるのでしょうか？

目に見えない、あるいは手に触れることのできない抽象的な（Ⅰ）を指すことばの意味―例えば「愛」とか「敬意」といったことばの意味―を、子どもはどのように理解することができのでしょうか。ヘレン・ケラーは、ジジヨ伝（『奇跡の人 ヘレン・ケラー自伝』）の中で「愛」ということばの意味を理解した時のことを述べています。

ある朝、サリバン先生は「ヘレンのことを愛しているわ」と綴りました。ヘレンは「愛って何？」と尋ねます。サリバン先生はヘレンを引き寄せ、彼女の胸を指さして言いました。「ここにあるわ」

しかし、ヘレンはこの答えにひどくトマドいました。「愛って、花のいい香りのこと？」「太陽の暖かい日差しのこと？」ヘレンは次々に聞いていきますが、サリバン先生は首を振り続けます。（①）、サリバン先生は「愛」を具体的に示してくれないのだろう、とヘレンはがっかりしながら考えていました。ヘレンは、この時にはまだ、手に触れられない、抽象的なものも名前を持ち、ことばで表現できるのだということを知らなかったのです。

ヘレンは、さらに、「愛」の意味を考え続けました。サリバン先生は指文字を綴って説明します。「雲にさわることはできないでしょう？ それでも雨が降ってくるのはわかるし、暑い日には、花も乾いた大地も雨を喜んでいるのがわかるでしょう？ それと愛は同じなのよ。愛も手で触れることはできません。だけど、愛が注がれる時のやさしさを感じることはできます。愛があるから、喜びが湧いてくるし、遊びたい気持ちも起きるのよ」

ヘレンは書いています。「その瞬間、美しい真理が、私のノウリにひらめいた―私の心とほかの人の心は、見えない糸で結ばれているのだ、と」。ヘレンは「愛」ということばを一生懸命考え、理解したことで、言語は、抽象的な概念にも名前をつけることができるのだということを知りました。これは、「モノには名前があり、ことばはモノの名前だ」という洞察に次ぐ、第二の洞察を彼女に与えたはずです。ことばは、直接経験できるモノに名前を与えるだけではありません。目に見えない抽象的な概念に名前を与えることは、直接的な感覚経験を超えた抽象的な思考に子どもを導いてくれるのです。

抽象的なことばの意味の理解を可能にするのもまた、ことばです。みなさんも、知らないことばがあったら辞書を引きますよね。辞書はあることばを別のことばで記述しています。説明に使っていることばをすでに知っていて、説明が理解できれば、直接それを見たり、触ったりする経験をしなくても（あるいは直接的な感覚経験ができない抽象概念の名前でも）、新しいことばを知ることができるわけです。ことばのストック（つまり語彙）がほとんどない小さい赤ちゃんは、ことばによって新しいことばの意味を学習することはできません。（②）、ことばのストックがある程度できてくれば、すでに知っていることばを使って新しいことばを学習していくことができるのです。すでに学んだことばによって未だ知らなかったことばをどんどん新たに学習し、新しい概念を身につけていくことができます。ことばを学習するということは、思考の強力な武器を手に入れることにほかなりません。

ヘレンは「愛」ということばの意味を理解する前に、愛という気持ちを持っていなかったわけではもちろん

ありません。もともと「愛する」という気持ちがどういふものがまったく理解できなければ、いくらことばで説明されても、字面は理解できても、「ほんとうの意味」はわかるはずがありません。「愛とはなんですか？」と聞かれたら「愛とは〇〇です」という定義を返すことができるようにロボットをプログラムすることは可能です。でも、定義を返せるということと、「愛」の意味がわかることは違います。愛という気持ちを自分で少しでも経験したことがなければ「愛」ということばの意味はわかりません。

では、もともと「愛する」気持ちを持っていたら、その気持ちに「愛する」ということばを単純に貼りつけられ「愛する」ということばの意味を理解することができるようか？ 言語獲得の理論では、長い間そのような考えが広く受け入れられていました。ことばの意味を獲得するということは、子どもがすでに持っている整理済みの概念にラベルを貼りつけていく作業だと考えられていたのです。

しかし子どものことばの使い方の発達変化を丁寧に見ていくと、Aその考えは正しくないことがわかります。例えば「愛」ということば。子どもは、このことばを教えられ、その意味を考えることによって、今まで整理されていなかった、漠然とした気持ちが無なのかということを考えるようになり、「愛」という概念に対しての理解を深めることができるのです。

子どもは（大人もですが）絶えず、ことばの意味を、そのことばではない別のことばと対比して考えます。（③）、「愛」は「好き」とどう違うのでしょうか？ 「愛」と「喜び」はどう違うのでしょうか？ ヘレンは「愛」ということばが「理解できた」と言っています。でも、「好き」や「喜び」などの、「愛」と深く関係することばを学び、それらと「愛」がどのように違うのかを理解するまでは、「愛」ということばの意味をほんとうに理解したとはいえません。あることばの意味をほんとうに理解するためには、そのことばと関連することばとどのように区別されるのかがはっきりわかる必要があります。

「愛」や「喜び」などの目に見えない概念を表すことばもまた、語彙という意味のシステムの一部です。「愛」ということばの意味は、「好き」や「喜び」「友情」「親しみ」「楽しさ」などの気持ちを表現することばとの関係性で決まります。これらのことばを学ぶことによって、それまで（Ⅱ）として未分化だった概念が、より明確になり、整理されるのです。

このようにして、子どもは目に見えない、手に取ることもできない抽象的な概念のことばを学び、ことばを学ぶことによってこれらの抽象概念をシステムの中で理解し、自分の一部にしていきます。それを可能にしているのはことばです。目に見えるモノや行為に対応つけて覚えた基本的なことばが、抽象的な概念を理解し、その名前を学習することを可能にしているのです。

一 文章中（ア）・（イ）・（ウ）のカタカナの正しい漢字を①～④から選んで記号で答えなさい。

ア ジジヨ

① 自助

② 自除

③ 自徐

④ 自叙

イ トマドイ

① 途惑い

② 戸惑い

③ 徒惑い

④ 図惑い

ウ ノウリ

① 脳吏

② 脳理

③ 脳裏

④ 脳利

二 文章中の①・②・③に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア ならびに

イ でも

ウ すなわち

エ だから

オ 例えば

カ まったく

キ しかも

ク なぜ

三 文章中の（I）に入る最も適当な言葉を、次から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 理念

イ 方式

ウ 概念

エ 文字

四 文章中の（II）に入る最も適当な言葉を、次から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 整然

イ 漠然

ウ 判然

エ 憤然

五 Aその考えは正しくない、とありますが、「その考え」とは、ことばの意味を獲得するということを、どのように考えることだと述べていますか。文中から、三十一文字で「・・・こと」につながる書き方で抜き出して書きなさい。

Ⅲ 次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

二一世紀もすでに四半世紀が過ぎようとする現在（二〇二四年）、いわゆる人工知能（AI）の情報処理能力は、すさまじい勢いで伸び続けています。このような状況を受けて、シンギュラリティ（技術的特異点）ということばが、話題になることも多くなっています。AIの知能が人間の知能に追いつき、いずれ追い越すだろうという予想のことです。これまで人間がたずさわっていた仕事の現場に多くのAIが導入されていますし、今後、人間の仕事のほとんどがAIに取って代わられるとも言われています。私たちの生活のすみずみにまでAIが入り込む近未来には、人間の生活はいつたどのようなものになるのか想像もつきません。

なかでも、記憶は、AIがもつとも得意とする分野です。AIの場合、どれだけ膨大な量の情報であっても、そのままの形で完璧に蓄えることができます。（①）たとえ何年たつても好きなときにもそのままの形で引き出すことができます。これに対して、人間が覚えることのできる情報量はAIの足もとにも及びません。たとえば、誰もが学校のテストで経験するように、苦勞の末、たとえ何とか暗記できたとしても、テストの翌日にはほとんど忘れてしまっていたのではないのでしょうか。そんな私たち人間とAIの決定的な違いは、私たち人間の記憶力の貧弱さです。たとえば、学校の授業や職場などで同じ話を何人かの人間が聞いた場合、その直後であっても各人が覚えている内容は一人一人バラバラで正確なものが多く、もとの内容とは似ても似つかない形で思い出されたりします。この記憶の正確さが、人間社会の数多くのトラブルのもとになるということには、誰もが思い当たるふしがあるはずです。言うまでもなく、AIにはこのような記憶の正確さといったことは起こり得ません。

このような私たち人間の記憶力の貧弱さから考えれば、記憶についてはすべてAIに任せてしまつて、私たち人間は記憶からの（I）を目指したくなります。実際、今では誰もがスマートフォン（スマホ）を所有し、うる覚えのことやわからないことはすぐにインターネットで検索して簡単に調べることができます。また、各種イベントの開始時刻や病院の予約時間といった予定なども、スマホに覚えさせることがふつうになりつつあります。さらに、日々の出来事や旅行先での思い出といったものさえ、スマホを使えば写真はもとより動画として正確に記録しておくことも手軽にできるようになっています。それどころか、ライフログという名前でも知られているように、個人の全人生を完璧な形で記録することすら可能です。ビジネスの現場で業務の外部委託を意味するアウトソーシングという用語を使うのならば、このような状況は記憶のアウトソーシングと呼ぶことができます。今後、この記憶のアウトソーシングの度合いがますます加速されていくのは間違いないでしょう。

これまでは、学校のなかであれ職場のなかであれ、少しでも多くの知識を自分の内部に記憶として蓄えることに価値が置かれてきました。そのため、人よりも多くの知識をもった者が、さまざまな場面で有利となり活躍できる場も多かったのではないのでしょうか。けれども、記憶のアウトソーシング社会では、そのような知識の大部分はインターネットをはじめとした外部の世界に蓄えられるようになり、誰もがそれらを自由に利用できるようになるはずです。そうになると、今までのような個人の内部に蓄えられる知識の多い少ないは、もはや価値をもたなくなるように思うかもしれません。

（②）本当にそうなのでしょうか。誰もが記憶のアウトソーシングに依存する社会になれば逆説的に聞こえるかもしれませんが、そのときこそ個人の内部に知識として蓄積された記憶がいつそう重要なものになります。誰もが認める創造性あふれる天才画家であったパブロ・ピカソの有名なことばに、「コンピュータは役に立たない。コンピュータが与えてくれるのは答えだけだ」というのがあります。この「コンピュータ」ということばの代わりに「記憶のアウトソーシング」を入れて、「記憶のアウトソーシングは役に立たない。記

憶のアウトソーシングが与えてくれるのは答えだけだ」とすれば、記憶のアウトソーシングだけに（Ⅱ）する問題点が浮き彫りになるのではないのでしょうか。そもそも個人の内部に蓄積される記憶は、個人ごとに量的にも質的にもまったく異なっているものなのです。そして、これらの記憶こそが私たち一人一人の個性を作り上げ、さらには創造性の基礎になります。

ここで改めて書くまでもなく、他人とは異なる思考様式に支えられた創造性の重要性は、芸術や科学の世界だけではなくビジネスや教育の世界でも繰り返し言われ続けてきたことです。けれども、しばしば誤解されるのは創造性がまったく何もないゼロの状態から突如として湧き上がってくるというものです。たとえば、独創的な映画作品を数多く創り出し、世界中の映画界に大きな影響を与えた黒澤明^{くろさわあきひろ}は、次のように創造性の基礎として記憶というものを考えています。すなわち「何もないところからものを創り出していると思っ^{おも}ているのは、人間の驕り^{おごり}だよ。生まれてから今までのどこかで、耳にし、目にした何かが、知らず知らずに入り込んだ記憶が、何かの切っ掛けで呼び覚まされて動き出す。そうやって、創造していくんだと思うよ」と黒澤は言っているのです。このように、個人の内部に蓄積された記憶と創造性の関係について卓越した創造性を示した一人の人物を引き合いに出すことで、記憶と創造性が密接に関連し合っていることを確認しておきましょう。

一部の専門家以外には、あまり知られていませんが、かつて南方熊楠^{みなみかたくまぐす}という人物がいました。熊楠は時代が幕末から明治に変わる混乱期（一八六七年）に生を受け、日本という国が破局に向かう太平洋戦争開戦の年（一九四一年）にこの世を去りました。（③）文豪と呼ばれる夏目漱石^{なつめそうせき}と同年に生まれた熊楠は、一七歳で当時の東京大学予備門に漱石の同期として入学したものの、一年で落第しました。その後は、終生この大学に所属することもなくひたすら自分の興味を徹底的に追及しながら、科学界の最高峰の学術英文雑誌である『ネイチャー』に五〇篇あまりの論文を寄稿しています。熊楠は日本の民俗学の創始者の一人でもあり、それだけにとどまらず粘菌研究の世界的博物学者でもあり、故郷の自然保護にも努めました。熊楠の痛快かつ破天荒な生き方は、それ自体がとても面白いのですが、ここでは、その超人的な記憶力のエピソードを一つだけ紹介することとします。幼い頃から本を読むのが好きだった熊楠は、一〇歳にもならない頃、今で言う絵入りの百科事典である『和漢三才図会』という書物（全一〇五巻）に強い興味をいだきました。そこで、熊楠は、知人宅にあった『和漢三才図会』を少しずつ読んで暗記し、それを帰宅後に絵も含めて書き記すことを繰り返して、三年で全巻を読破したのです。このエピソードには多少の誇張もあるようですが、自慢の記憶力を駆使して膨大な書物を読んで知識を増やしたのは間違いなさそうです。熊楠は、ほぼ独学で英語、ドイツ語、フランス語はもとよりラテン語、ギリシア語など一〇カ国語近くの言語をマスターし、文字通り古今東西の膨大な書物に目を通して、それらを記憶に蓄え博覧強記を誇りました。そしてこの内部に蓄えられた記憶を意識的・無意識的に活用して、「南方マンダラ」と呼ばれる独創的な仏教的世界観を提唱したのです。この熊楠の例からもわかるように、（Ⅲ）性は何もないところから生まれるのではなく、個人の内部に蓄積された記憶が必要不可欠なのです。

（高橋雅延『記憶の深層―（ひらめき）はどこから来るのか』岩波書店より）

一 文章中の①・②・③に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア	ア	イ	ウ	エ
オ	イ	カ	キ	ク
い	わ	あ	ま	は
ゆる	えて	るで	るで	たし
				て

二 文章中のⅠ・Ⅱ・Ⅲに入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア	イ	ウ	エ
オ	カ	キ	ク
拘束	創造	依存	記憶
解放	規則	独立	模倣

三 筆者が、この文章の中で述べたことは何ですか。五十文字以内で書きなさい。

I

五		四	三	二	一
② 達成できない目標はきつぱりとあきらめて、新たな別の目標を設定する ことを提案している	① （解答例）（三十字） 目標を達成できない原因を見極めて、目標や計画・方法を調整する ことを提案している	(Ⅱ) イ	(Ⅰ) ウ	① キ	ア ②
				② ア	イ ③
				③ エ	ウ ①

II

五	四	三	二	一
子どもがすでに持っている整理済みの概念にラベルを貼りつけていく こと	(Ⅱ) イ	(Ⅰ) ウ	① ク	ア ④
			② イ	イ ②
			③ オ	ウ ③

III

三	二			一
個人の内部に蓄積された記憶は、創造性と密接に関連し合っており、必要不可欠なものであるということ。	(Ⅲ) イ	(Ⅱ) ウ	(Ⅰ) オ	① イ
				② ク
				③ オ